

◎成人式で着た羽織
(収集:天白区中平)

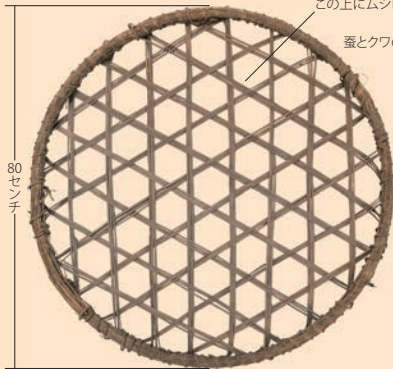


※着物のほうは
布きれで残っている。

「成人式はみんな羽織に着物。
洋服の人は2人しかいなかったよ」
※昭和35年ごろのはなし



◎蚕を育てる所、エンザ(円座)
(収集:守山区幸心)



この上にムシロ(筵)や紙を敷く
↓
蚕とクワの葉を入れて飼う

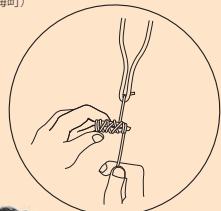


※四角いタイプもある



「蚕がクワを食べるときは、
ざあざあざあ…
雨が降ってるみたい」

◎有松・鳴海絞りの絞り台
(収集:緑区鳴海町)



糸を切るために、
カミソリが付いている。



「はさみ使ったら、内職やれん。
いちいち拾わないかんでしょう？」

採録 名古屋の 衣生活

伝えたい記憶 残したい心

2017年

2月11日(土) 3月26日(日)

休館日 ■毎週月曜日(祝日の場合開館、その直後の平日休館)と第4火曜日
会期中の休館日2/13、20、27、28、3/6、13、21
開館時間 ■9時30分～17時(入場は16時30分まで)
観覧料 ■一般300(400)円/高大生200(300)円
中学生以下無料
市内在住の65歳以上100(200)円
※敬老手帳等の提示が必要。他の割引との併用はできません。
※()内は常設展「尾張の歴史」との共通料金。

名古屋市博物館

〒467-0806 名古屋市瑞穂区瑞穂通1-27-1
TEL 052-853-2655 FAX 052-853-3636
HP <http://www.museum.city.nagoya.jp/>

◎ツネギ(常着)の例
(収集:天白区中平)



上っぱり(「フフ」とも)

上っぱりを羽織れば、
中の着物は帯ではなく
紐ですますこともできる。

↓
糸

ウールの着物

色は濃い目
↓
汚れが目立たない



◎漁師が防寒のために着たカワジュバン
(収集:中川区下之一色町)



6枚重ね
緋生地 } それぞれ
縹生地 } 2枚ずつ
白生地 }
↓
刺子になっている。



着用例



※同じく防寒具ドカン

◎くず糸を再利用した結び糸の着物
(収集:瑞穂区駒場町)



結び糸をよこ糸にして
織って着物にする。



「1か月くらいできちやう。
テレビ見ながらでもね」

結び糸 この糸を結んで長くする。



＼名古屋の“衣”について、いろいろ記録しました／

企画展「採録 名古屋の衣生活 ～伝えたい記憶 残したい心～」を開催

名古屋市博物館では、2月11日(土)から3月26日(日)まで、企画展「採録 名古屋の衣生活 ～伝えたい記憶 残したい心～」を開催します。昔のくらしの中の衣に注目して、地域に残る着物や道具に込められた記憶・歴史を、その時代をくらししてきた人々の心にも触れつつ、探る展覧会です。展示する資料の多くは名古屋に住む方々から御寄贈いただいたもので、テーマごとに昔の様子を語る地域の方々のインタビューも紹介します。名古屋という地域で集めたモノや声とともに、今記録できる名古屋の衣生活の移り変わりを見ていきましょう。

・“衣”をいろんな切り口で見よう →p.2へ

- 身にまとう① 一晴着と普段着
- 身にまとう② 一町と村の衣服
- 着物をつくる 一機織りと裁縫
- くらしを立てる 一養蚕と絞り

・昔の様子をインタビュー →p.3へ

- どういうときにチョコチョコ着を着ましたか？
「芝居見に行くときとかに着て行くの。御園やあいうとき、着物着て行ったの……」

・なくなっていく「手作りの技」にも注目 →p.4へ

- 実物の資料や動画、スケッチで紹介！

イベント

実演：機織り～布を織るってどうやるの？～
機織りを糸から布にするまでの段階を一通り展示を担当する学芸員が実演します。布を織るといふ手間ひまがわかります。 →p.5へ

・「採録」今だから聞けることを記録して残す そして次世代へ →p.4

イベント

クイズラリーに挑戦！
子どもも参加できる(親子での参加、大歓迎)のクイズラリーを開催します。昔のくらしを楽しく学び、再発見しましょう。 →p.5へ

<本件に関する問い合わせ先>

名古屋市博物館 名古屋市瑞穂区瑞穂通1-27-1

展示担当：学芸課 佐野、広報担当：学芸課 塚原・三浦

Tel 052-853-2655 / Fax 052-853-8400 / E-mail ncm-gaku@juno.ocn.ne.jp

広報用の作品画像・読者プレゼントチケットの申請について →p.6へ



・“衣”をいろんな切り口で見よう

〈展示構成〉

第1章 身にまとう① 一晴着と普段着

1. 人生の節目と衣服
2. 普段着の着こなし

第2章 身にまとう② 一町と村の衣服

1. 町のくらしと衣服
2. 工夫をこらした仕事着

第3章 着物をつくる—機織りと裁縫

1. 消えゆく手織りの記憶
2. 仕立てから繕いまで

第4章 くらしを立てる—養蚕と絞り

1. くらしの中心はおかいこさん
2. 有松・鳴海絞り くくり手の女性たち

着物や道具からわかることをコラムで紹介

展覧会では、「着物は語る」「道具は語る」と題して、着物や道具からわかることを各章のコラムでご紹介します。ひとつだけ、ここで取り上げておきます。



写真：大高齋田御田植祭

6月第4日曜日に緑区大高町の水上姉子神社で行なわれる祭。苗を植える早乙女は大きな笠にタスキ掛け、帯をしている。
平成27年6月28日撮影

田んぼの仕事の中でも、苗を植える田植えは全国的に女性が行なっていたところが多いようです。このとき、袖まくりをするのにタスキ掛けをしたり、新しい菅笠をかぶったり、お太鼓の帯を締めたりするという事例が報告されています。タスキは、古くは祭祀のときに用いる「木綿櫛」というものがあり、晴着のひとつとも考えられています。田植えをする女性が着飾るのは田の神さまを祀るためであるという説もあります。

名古屋でも新嫁さんは田植えのときに新しい仕事着を着てお太鼓に結んでいたそうです(『名古屋市史 第9巻』)。

現在では機械植えが一般的で手で植える田植えの姿は見られなくなりましたが、お田植祭などでその様子を知ることが出来ます。

着物は語る

田植え姿は晴れ姿？

・昔の様子をインタビュー

テーマごとに地域の方々にインタビューをして、昔の様子や着物、道具について語ってもらいました。どういうときにどんな道具を使うのか、着物を着たのか、ということだけでなく、語り口調からそこに込められた気持ちを感じられます。



— どういうときにチヨコチヨコを着ましたか？
「芝居見に行くときとかに着て行くの。御園*やあ
あいうとき、着物着て行ったの。私んたちは御園へ
ね、芝居見に行くっちゃあよ、着物いいやつ着て
ね、タレモノ*着て、帯締めて、羽織着て見に行き
よったよ。昔は御園やなんか行くときは、着物着て
行くもんだよ。」

*御園 御園座のこと。
*タレモノ 絹の着物のこと。



お話をうかがった人
昭和15年生まれの女性 天白区中平

採録 お嫁さんとおばあさんの着こなし

(第1章2 普段着の着こなし)より

聞き取りメモ
8/3 天白区
ここへね、来たはなにね、わしたちもタンスの前へずー
どう並べて、見にみえた人がこうやってね、中どんな
着物持って来おったかね、みんな見よったよ。
—タンスの中に着物が入っているんですね？
入ってる。入ってる。
—タンスの前にも広げるんですか？
前に出すの。前にみんなこう...。裁ち台が、和裁の
裁ち台で。木の。その上についでに置いたりして。
わたしたちはやったよ。おばあちゃんが「見せないか
ん」って言って。ほで、わたしが綻かっただのこれ。
そしたら怒られちゃったの。「みんなに見せないかんの
んに怒られちゃったの。「みんなに見せないかんの
ほんなあんな縫かけて」って言ってね。
—どういう着物を置いたんですか？
持って来た、いい着物が多い。タレモノが多いね。
—裁ち台の上も文庫を置いたんですか？
—裁ち台の上も文庫を置いたんですか？
文庫に入ったままね。あれに入ったまま、包んど
んなか開いて見たみたい。
—裁ち台の上も文庫を置いたんですか？
文庫の上に。その自分たちで見た。文庫を横へ

写真

チヨコチヨコ着 収集地：天白区中平 昭和

ちょっとしたお出かけに着る衣服を「チヨコチヨコ着」と
いいました。家で着る「ツネ着」とこの「チヨコチヨコ着」
と、行事などに参加する「ヨソイキ」という3つの段階で
着分けていました。



採録 寒さに負けない漁師の防寒術



写真

カワジュバン 収集地：中川区下之一色町 昭和

漁師が漁に出て水仕事をする時や雨が降った時に着る
上着。何枚も生地を重ねて、刺し子にしてあるのが特
徴です。

— カワジュバンを作るのは女性ですか？
「うん。これみんなうちででかしたんだわ。で、これみんな手
縫った跡だ。こんなもん、だーっと縫ったるわな。(生地は)みんな
今まである程度使った、着たやつと違うかな。
今の人間ではできんわ。馬鹿らしなって、できんわ。買って来た
ほうが早いもんだ。今の人間じゃ。テレビも何もない時代だも
んでよ、ばあさまたち四、五人集まって、話...、嫁の悪口言い合っ
て集まって、手を動かしてたわ。へいぎん*、そういうふうだわな。」

*でかした 作った、こしらえた。
*へいぎん 平均。ふつう。

(第2章2 工夫をこらした仕事着)より
お話をうかがった人
昭和6年生まれの男性 中川区下之一色町

・なくなっていく「手作りの技」にも注目。

昔は糸から布を織って着物に仕立てていましたが、作る工程を一つ一つ見ていくと、その苦労はもちろんのこと、その手間ひまの中に込められた知恵や工夫を発見することができます。また、こうした工程を知っているからこそ、昔の人々は着物を大切に扱い、継いでは着て、ほどいては別のものに作り替え、ついには雑巾にするというふうに最後まで無駄にすることなく使ってきました。当時の人々の着物に対する扱いを通して、たくさんの衣服を簡単に得ることが当たり前の今をかえりみるきっかけにもなるはずです。



写真：機織りの様子

昔話「つるの恩返し」などに出てくる機織り。長いたて糸に一本ずつよこ糸を通すのは考えただけでたいへんですが、実はその作業をするまでに6つの工程(整経、せいけい 箆通し、おさとお ちきり巻き、かざりがけ、はたあ 機上げ)を経なくてはなりません。それは細かく、根気のいる作業ばかりですが、そこにはたくさんの知恵や工夫が詰まっています。展示会場では糸から布になるまでのすべての工程を再現した資料を展示し、動画でも紹介します。

※動画撮影協力：手織工房やまもも

・「採録」一聞けることを記録して残す

今現在、私たちは多種多様な衣服を豊富に手に入れる生活をしています。そのような生活ができるようになったのは戦後のことです。それまでは、その地域の暮らし(自然環境や生業など)に結び付いた衣生活が営まれてきました。そうした時代を経てきた歴史、そこで培われた生きるための知恵や工夫、長い間伝わってきた風習は、次の世代にぜひとも伝えたいことでもあります。

しかし、昔の着物や道具は生活環境が変わりだんだん廃棄されていっており、その当時の話もだんだん聞けなくなっているのが現状です。そうした中で、今記録できることを記録して皆様に伝えていく、それが今回の展示会の目的です。

写真：さまざまな記憶を伝える着物



・そして次世代へ

来場者は展示会で展示を見ながら、ぜひとも語りあっていただければと思っています。会場に展示している着物や道具を使ったことのある方々は、それらを知らない次世代の方々に語っていただき、世代間交流の場にしていただければと思います。

ギャラリートークなどで手話通訳・要約筆記などによるサポートをご希望の方は、当日の2週間前までに名古屋市博物館までご相談ください。

ギャラリートーク

日時 3月18日(土) 14時～14時45分
 場所 1階特別展示室(当日有効の観覧券が必要です)
 講師 当館学芸員
 定員 30名程度

実演：機織り一布を織るってどうやるの？

日時 2月26日(日)、3月15日(水)、3月26日(日) 14時～14時30分
 場所 1階特別展示室(当日有効の観覧券が必要です)
 講師 当館学芸員

糸がどうやって布になるか、実演を交えながら順を追って説明します。

クイズラリーに挑戦！

①採録コース

日時 3月5日(日) 10時～12時
 場所 1階特別展示室(当日有効の観覧券が必要です)
 定員 20名程度

②昔の知恵コース

日時 3月11日(土) 10時～12時
 場所 1階特別展示室(当日有効の観覧券が必要です)
 定員 20名程度

展覧会を見ながらクイズに挑戦しましょう。答え合わせは学芸員と一緒に回って解説します。最後に「衣生活伝承者」認定証とステキな缶バッチをプレゼント。

展覧会情報

タイトル

企画展 採録 名古屋の衣生活 伝えたい記憶 残したい心

会期 平成29(2017)年2月11日(土)～3月26日(日)

休館日 毎週月曜日(祝日の場合開館、その直後の平日休館)と第4火曜日

会期中の休館日 2/13、20、27、28、3/6、13、21

開館時間 9時30分～17時(入場は16時30分まで)

観覧料金 一般300(400)円 高大生200(300)円 中学生以下無料

市内在住の65歳以上100(200)円 ※敬老手帳等の掲示が必要。他の割引との併用はできません。

※()内は常設展との共通料金。 ※名古屋市交通局の一日乗車券・ドニチエコきっぷを利用して来館された方は50円割引。 ※身体等に障害のある方または難病患者の方は、手帳または受給者証のご提示により、本人と介護者2人まで料金無料。 ※各種割引は重複してご利用いただくことはできません。 ※30名以上の団体は割引があります。お問い合わせください。

名古屋市博物館

〒467-0806 名古屋市瑞穂区瑞穂通1-27-1

TEL 052-853-2655 FAX 052-853-3636 ホームページ <http://www.museum.city.nagoya.jp/>

地下鉄桜通線桜山駅4番出口 徒歩5分

広報用画像・読者プレゼントチケット 申請書

企画展「採録 名古屋の衣生活 ～伝えたい記憶 残したい心～」

□広報用画像の使用は、「採録名古屋の衣生活」を紹介する場合に限ります。展覧会終了後の使用、または二次利用はお断りします。

□広報用画像を紹介する場合には、展覧会名・会期・会場・作品名・クレジットを必ず記載してください。

□広報用画像は全図で使用してください。トリミング、変形、部分使用、文字のせを行なう場合は事前に申請の上、承諾が必要となります。

□掲載記事につきましては、基本情報確認のため、校正刷り、原稿の段階で下記広報事務局までお送りください。

貴社についてお知らせください

貴社名

媒体名

ご担当者名

ご所属部署

ご住所(〒 -)

電話

FAX

e-mail

掲載紙・誌の発行日・放映の予定日が決まっていたらお知らせください()。

年 月 日

【個人情報の取り扱いについて】 ご記入いただきました個人情報は、名古屋市博物館より本展覧会に関する情報発信や連絡などが必要な場合にのみ使用します。許可なく第三者に開示することはありません。

作品画像を1点以上掲載し、本展をご紹介いただける場合、読者向けチケット(5組10名分まで)を提供します。

希望する(組 名分) 希望しない

※原則として掲載紙・誌(web掲載の場合は掲載アドレス知らせるメール)が広報事務局に到着し、確認させていただいてから発送いたします。 ※ご希望の画像の□に✓してください。 ※1～4の資料名は以下の名称を使用し、「名古屋市博物館蔵」と明記してください。



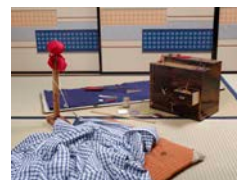
1
花嫁衣装の振袖 明治



2
漁師の仕事着 昭和



3
機織りの様子



4
さまざまな裁縫道具



5
(展覧会イメージ)

お問い合わせ先

名古屋市博物館学芸課「採録 名古屋の衣生活」展 広報担当(塚原、三浦)

〒467-0806 名古屋市瑞穂区瑞穂通1-27-1

TEL:052-853-2655 FAX:052-853-8400 HP:<http://www.museum.city.nagoya.jp/> e-mail:ncm-gaku@juno.ocn.ne.jp